

10-2 福島 安正 ガ イ ド



1、出生

嘉永6年（1853）9月19日、松本藩士福島安広の長子として、松本市西町（北深志2丁目）の自邸に生まれた。

幼名は、金重太郎または運治（うんや）、のち安正と改めた。

2、西町の出生自宅と現在

西町の出生自邸は、現在は彼の遺書により松本市に寄付され、以降地区公民館と小公園となって、松本市長だった小里頼永（よりなが）によって書かれた記念碑を建てて、顕彰をしている。下の絵図と写真を参照されたい。

絵図をみると、同じ西町には幼名友達であった河原忠（としな）の家が道を挟んで2軒北に見える。（黄色の矢印）この河原家に河原操子が生まれた。

3、取り巻く環境

6歳の時母が病死し継母に仕えたが、叔母を慕い、叔母が嫁した時元の家に帰ることを要求したが果されなかった。

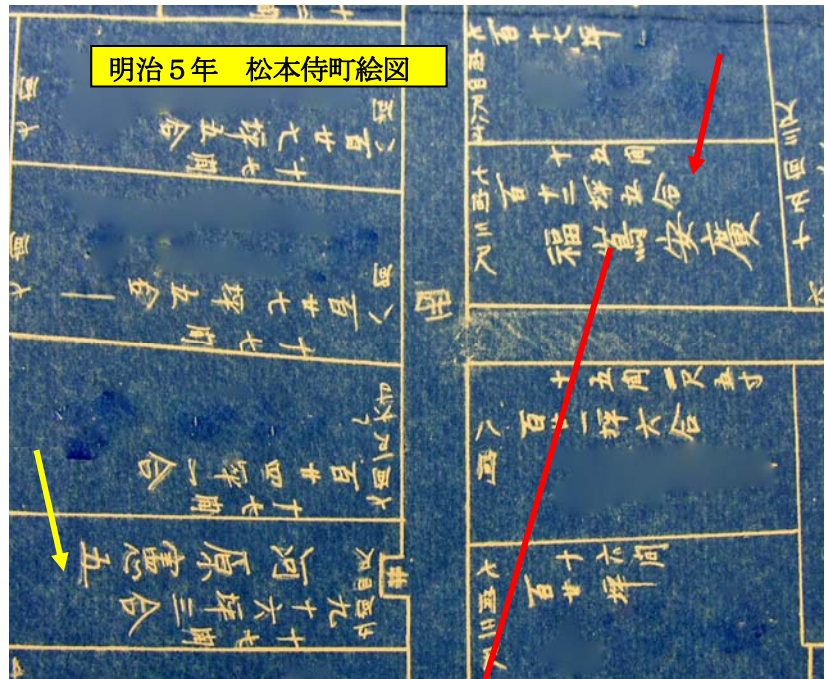
安正の剛毅果敢（ごうきかだん：意思が強く物事に屈しなく、思い切りがよいこと）の性格は幼い頃からみられ、年長の児童と喧嘩をして組ぶされても、降参したと遂に言わなかったという。

また、松本藩下級武士は生活を成り立たせるために押絵をつくっていたが、それに興味を持ち、16歳の時制作した押絵天神は、彼のシベリヤ単騎遠征後も東京に持帰って大切に所蔵していた。

父安広について文武の教育を受け、藩の盲目の数学者中島這棄（このすて）について数学を学んだ。射撃にも非凡な力を持っていた。慶応3年（1867）藩に願ってオランダ式練兵および軍楽を学ぶために江戸に出、翌明治元年卒業後松本に帰り藩の子弟に教授した。

4、主な経歴・・・「シベリヤ単騎遠征」まで

- 明治2年（1869）17歳、藩



- 主戸田光則（みつひさ）に従って江戸に出て、開成所に入り、英書を学ぶ。
- 明治3年再び上京し、瓜生三寅の塾にはいり、大学南校に通学した。苦学の道を歩む。
 - 明治6年4月ようやく司法省十三等出仕となり翻訳課に勤める。
 - 明治7年陸軍省に転ずる。十一等出仕となり参謀局に勤務した。地学の研究に専念し兼ねて諸外国語を修め、彼の修めた外国語は英・仏・独・露および中国の5ヶ国語後に及んだ。
 - 明治9年（1876）米国ヒラデルヒアの万国博覧会に赴く。西郷従道に随行する。
 - 明治10年西南の役には征討総督本部付を命ぜられ、参謀本部長山県有朋中将の伝令役となる。役後清国公使館付武官として2年間勤務する。
 - 明治19年（1886）印度地方巡回を命ぜられ、「印度紀行」を著す。
 - 明治20年ドイツ公使館付となる。陸軍少佐。
 - 明治24年任期満ちて帰朝するにつけ、露国を経過してウラル・アルタイの二山脈を越えて外蒙古に入り、再び東部シベリヤに出てウラジオストックに至るまで各地の実情を視察する計画を立てる。
 - 明治25年1月ドイツ皇帝より訣別の辞を賜る。
 - ◎ 同2月11日ベルリンを出発した。「シベリヤ単騎遠征」
 - ・ 明治24年参謀総長に上申して許可を求める。安正の計画では、エジプト・ペルシア・アフガニスタン・アジア各地を計画したが、緊要な所としてシベリア横断を許可する。
 - ・ 明治25年2月11日紀元節の佳き日を出発の日とした。愛馬「凱旋」に騎乗
 - ・ 3月5日 スワルキーに到着
 - ・ 3月24日 ペテルブルグに着く
 - ・ ベルリンを出発して88日目、愛馬「凱旋」足痛で歩行不能と為る。新馬「烏拉（ウラル）」と遠征。
 - ・ 暑気のため夜行を取る。道路、雨、群虫等に苦しむ
 - ・ 明治25年9月15日 アルタイ駅を出発。送別の宴を開催してもらう。
 - ・ 9月23日アルタイ山脈の頂上に立つ。
 - ・ 国境を越えて蒙古に入る。体調不良で11日間苦しむ。
 - ・ 11月初旬 再びシベリヤに入る。寒気厳しく着物と馬の世話に苦勞する。落馬で頭を打つ。死を覚悟したほど。手当てで回復。「九死に一生」。馬も5日間の休養で回復。
 - ・ 3月8日ブラゴベに着く。
 - ・ 4月3日満州チチハルに到着。
 - ・ 5月9日には吉林に着く。
 - ・ 6月12日目的地ウラジオに無事到着する。馬は全部で十頭のうち3頭を東京に連れ帰った。行程3500里（13744km）、488日におよぶ行程であった。数々の苦難を乗り越えての「単騎シベリヤ横断」であった。
 - ◎ 明治26年6月29日無事帰国した。
 - 明治27年（1894）日清国交が断絶、いわゆる日清戦争にはいり、転戦した。28年台湾に出張する。
 - 明治28年8月22日欧亜旅行視察の命を受け、エジプト・トルコ・コーカサス・ペルシア・シヤム・アンナン・トンキンの各地を視察。30年3月25日帰朝する。
 - 明治33年陸軍少将
 - 明治37年日露開戦。満州軍の参謀となり、作戦の中枢に加わった。
 - 明治39年陸軍中将、参謀次長となり、軍の経営・画策に当たった。
 - 大正3年（1914）陸軍大将
 - 大正8年2月18日 没 享年68歳 青山墓地に葬られた。



アルタイ越

信条 剛健主義・耐寒耐熱旅行